

議事日程

会議名称	第8期 第6回 与謝野町産業振興会議
会議目的	阿蘇ベイエリアの魅力を共有後、対象エリアを決め、望む未来像について共有する
会議日時	令和8年3月3日（火） 15:30～17:00
会議場所	岩滝保健センター 2階 会議室1・2
議題等一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域資源・魅力」の洗い出しと共有（15:35～16:00） ・対象エリアについて協議・決定（16:00～16:15） ・「望む未来像」について洗い出しと共有（16:15～16:55） ・質疑応答・まとめ（16:55～17:00）
今後の進行	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す未来像を絞り込む（決める） ・未来像実現に必要なことの把握 ・未来像実現を阻む課題の把握 ・未来像実現に向け取組む内容の整理 ・協力体制について協議・整理 ・実現の時間軸（長期・短期）を決める ・内容をまとめ、与謝野町総合計画に意見書を提出する
配布資料	資料1：阿蘇海周辺の地図
メモ	

「第8期 第6回 与謝野町産業振興会議」までに考えてきていただきたいこと

① 阿蘇ベイエリアの魅力・地域資源は？

* 最小7つ、最大は思いつかれる限りでお願いします。

個人的に魅力的だと思っておられること、どんなことでも○です。

② どのたり・範囲を対象エリアとするか？

* 含める場所や施設、建物、モノ、植物…などをイメージされながら

③ どんな場所・町並み・雰囲気・状態（未来像）になって欲しいですか？

* どんな人にとって欲しいですか？

* 景観的に合わせたい雰囲気はありますか？

* 具体的な事例があれば教えていただきたいです

参考)

地域資源・魅力について

人、物（特産品・名産品）、自然、気候、風土、景色、歴史、伝統、文化、施設、店舗、会社 など

* 多くの魅力に気づけるほど、活性化がしやすくなります

* 「ここにしかない」、地域特性・個性、オリジナル性が強いほど、魅力を伝えやすいです

* 短所を逆手にとる活性化の方法もあります
(地域で暮らす人からすると、負の資源)

地域中核企業の地域経済における役割 ～加悦ファーマーズライスの調査を中心に～

2026年3月3日（火）
京都橘大学経済学部 小山ゼミ
岩滝保健センター
（現地報告）

京都橘大学との連携深化

- 2020年における地域調査プロジェクト
本学学生と教員（他大学を含む）が連携し、広域的な地域調査を実施。報告書を作成、そして発表。産業振興政策のための基礎調査。
- 2022年における覚書の締結
これまでの連携の蓄積を踏まえ、与謝野町と地域連携センターとで「覚書」を締結。
- 経済学部ゼミ活動、アースダイブ実験
毎年、ゼミで与謝野町の地域経済を研究、2024年度以降は京都府の補助金を活用し、調査活動を展開。定期的に学生が与謝野町を訪問。

これまでの調査連携の土台と成果

- 地域内経済循環・地域内再投資への着目
本学教授岡田知弘と大学院ゼミによる活動。京都大学大学院経済学研究科が中心。
- 中小企業振興基本条例制定への取り組み
条例制定とその後の運用、産業振興会議での取り組みを通じた連携。
- 京都中小企業家同友会メンバーとの連携
メンバーとの同友会内での連携、景況調査分析からの調査・分析の拡大。

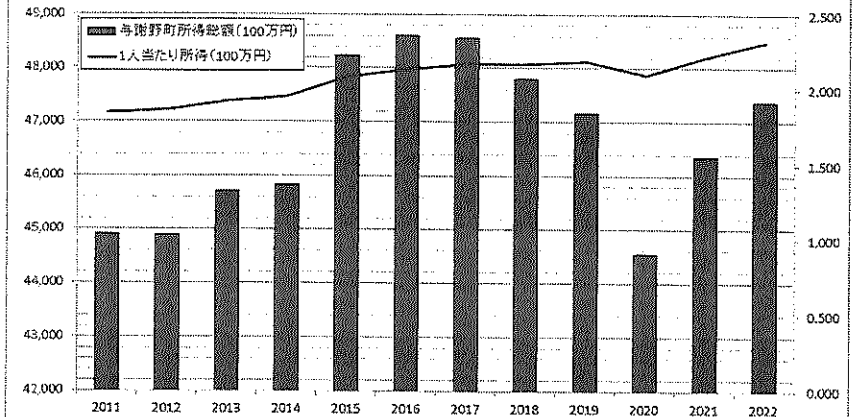
本研究プロジェクト概要

- 2024年度の研究プロジェクト：令和6年度大学・学生とともにのばす京都プロジェクト
与謝野町における農福連携事業の現状と課題、そして成果を研究。報告書を作成するとともに、京都府の報告会にて対面報告。
- 2025年度の研究プロジェクト：令和7年度京都未来人材育成プロジェクト事業
与謝野町における地域内経済循環、地域内再投資の起点となる地域中核企業の調査を実施。

与謝野町における課題

- 多様な産業が活躍できる社会の形成
あらゆる産業、企業、若者が活躍することができるチャンスに満ちた社会の形成。
- 地域内経済循環の促進
地域内経済循環の促進に向けた体制作り。与謝野町の産業政策の基本的「柱」となっている。
- 域内付加価値の上昇による所得向上
各種連携による域内付加価値と所得向上。人口減少に負けない社会・経済の構築。
- 豊かや地域の創出
持続的な発展による豊かな地域の創出。

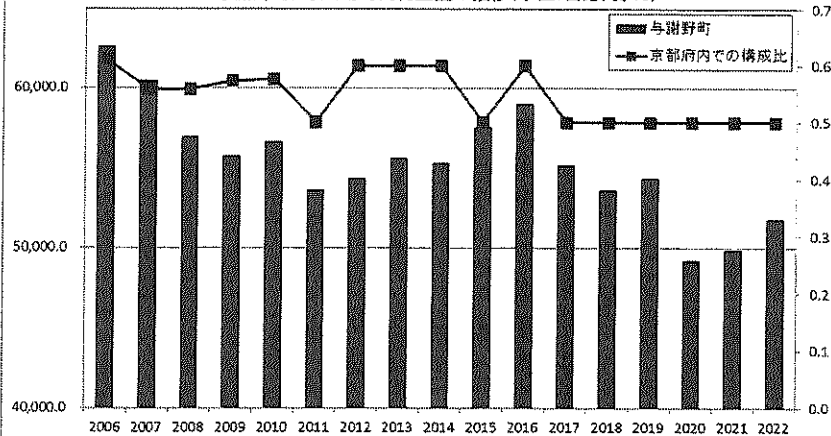
与謝野町における町内所得総額と1人当たり所得の推移(単位:百万円)



出所:京都市企画統計課HP(<https://www.pref.kyoto.jp/tokai/yearly/shicho/shichotop.html>) アクセス日:2026年1月28日)、与謝野町役場HP(<https://www.town.yosano.lg.jp/administration/town-overview/town-statistics/t6jinka/>)アクセス日:2026年1月28日)より作成。

町内の1人当たり所得は増加傾向にあるが、2011年から2022年の間に物価は13.1%上昇しており、実質ベースで見ると、現状維持の状態が続いている。

与謝野町における町内総生産の推移(単位:百万円、%)



出所:京都市企画統計課HP(<http://www.pref.kyoto.jp/tokai/yearly/shicho/shichotop.html>) アクセス日:2026年1月28日)より作成。

与謝野町における町内総生産は、コロナ禍からの回復途上にあるとはいえ、長期的には減少傾向にある。

「地域中核企業」とは何か

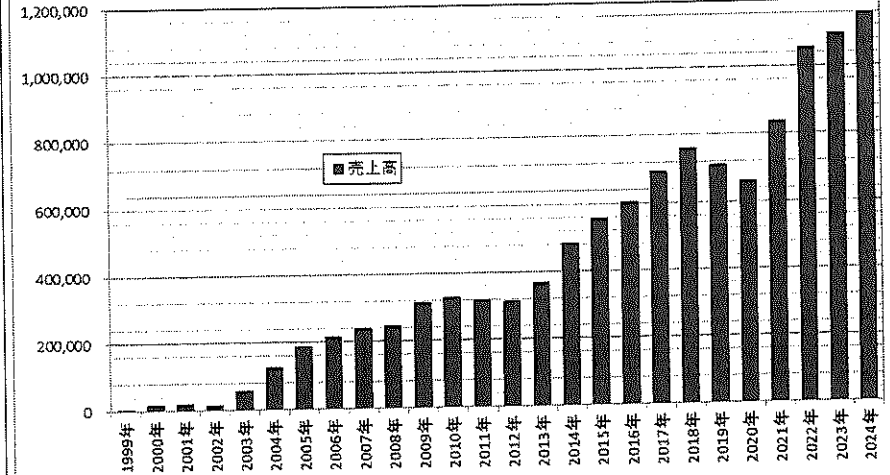
- 地域内再投資の担い手
「高い技術力や成長性を有し、地域内取引や雇用の拡大など、地域に相当な経済効果を及ぼす地域経済を牽引する企業」のことを指す(経済産業省)。
- 地域の持続的な発展に寄与
地域経済を未来に渡って担い、地域の持続的な発展へ、継続的に寄与することが期待されている企業。地域経済の高付加価値化に寄与。

加悦ファーマーズライスはまさに与謝野町における「地域中核企業」と言ってよい。

加悦ファーマーズライスの特徴 ～地域中核企業としての色彩～

- 地域農産物の集荷・買取
与謝野町産のコメの一定数量を毎年購入し、営農継続に寄与している。
- 食品加工を通じた高付加価値化
町内産米を加工し、高付加価値化することで地域内経済循環に寄与している。
- 域外所得の獲得と地域の雇用への貢献
販売のほとんどは与謝野町外で行われており、域外所得を獲得する中心主体である。
- 第3セクターとしては稀有な存在
第3セクターとして地域内経済循環を大きく担っている成功事例は少ない。全国での稀有な存在であるといえる。

加悦ファーマーズライスにおける売上高の推移(単位:千円)



出所:加悦ファーマーズライス提供資料より作成。

町内産の米を使い町内工場で加工、出荷するなかで2022年度に売上高10億円を達成。2024年度まで3年連続で10億円超の売上高を維持している。

図表1-4 与謝野町における地区別民営事業所数及び従業者数(単位:所、人)

	与謝野町		岩瀬地区		野田川地区		加悦地区	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	1,793	7,695	448	1,592	778	3,163	428	2,510
建設業	171	815	51	247	71	312	49	256
製造業	796	2,600	176	674	367	955	253	961
卸・小売業	338	1,706	93	462	148	797	97	447
宿泊業、飲食サービス業	85	431	23	171	39	172	24	89
医療・福祉	54	684	10	65	25	354	19	285

平成28(2016)年

	与謝野町		岩瀬地区		野田川地区		加悦地区	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	1,257	7,696	403	2,276	361	3,133	447	2,247
建設業	152	648	45	185	66	281	41	179
製造業	631	2,332	139	563	303	883	189	686
卸・小売業	302	1,537	78	414	136	613	66	310
宿泊業、飲食サービス業	83	365	25	158	39	152	19	55
医療・福祉	91	1,245	20	352	38	360	39	334

令和3(2022)年

	与謝野町		岩瀬地区		野田川地区		加悦地区	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	1,326	6,006	320	2,232	229	3,138	367	2,480
建設業	143	613	40	182	64	261	39	170
製造業	465	2,028	94	406	230	743	141	678
卸・小売業	225	1,321	60	314	121	729	74	276
宿泊業、飲食サービス業	71	281	20	91	35	155	16	35
医療・福祉	81	1,411	20	616	40	445	31	350

出所:総務省統計局「経済センサス活動調査」平成24年、平成28年、令和3年(https://www.e-stat.go.jp/stat-search?pageno=1&tokei=00200553)アクセス日:2025年1月28日)より作成。

株式会社加悦ファーマーズライスは、加悦地域にあって製造業の従業者数の17.2%を占める存在となっている。

2025年度における調査活動

- 補助金採択前における取り組み
学生たちと与謝野町経済について分析。現3回生は昨年度与謝野町で実習。現2回生は3月に実施予定。与謝野町役場との事前打ち合わせ。
- 補助金採択後の取り組み
ヒアリング項目の検討、調査スケジュールの確定、調査人員の確保、体制づくり。
- 現地調査とヒアリングの実施
2025年11月21(金)～23日(日)の日程で加悦ファーマーズライス様にヒアリング調査、そのほか、地域の実情を視察。イベントの実施。

GISを活用した経済活動の「見える化」

• GISとは何か

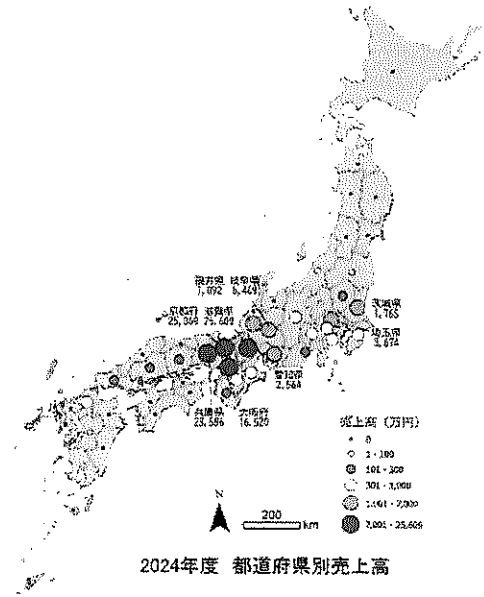
GISとは (Geographic Information System: 地理情報システム) の略であり、各種データを秩序で落とし込む技術のこと。

• データを可視化することによる効果

地域経済の実情、統計的数値を地図上で可視化することによって、数値の説得力が高まる。

• 新たな発見と可能性

地理情報を連動することが新たな発展や地域政策、まちづくりなどの可能性が広がるだけでなく、経済活動による効果、貢献を適切に評価できるようになる。



商品の販売先を見ると、関西エリアを中心として、中部、関東にまで広がっている。



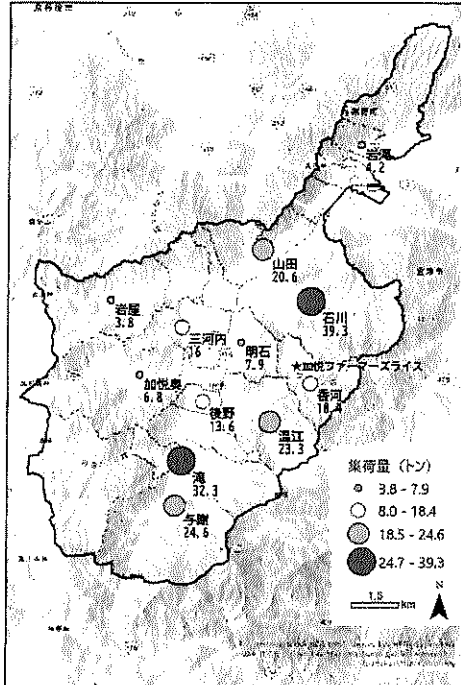
特に関西においては一定のブランド力をすでに形成している。



そして、町内で生産した商品を域外で販売し所得をもたらす存在となっている。

2024年度 都道府県別売上高

本学経済学部講師 前田一馬作成



米の調達先は与謝野町内全地域に広がっており、平野部だけでなく中山間地域に広く分布している。



町内における条件不利地域での生産を支え、契約農家に対して、実質的な所得補償を行う存在となっている。



地域農業の重要な担い手であり、地域内付加価値形成に重要な役割

本学経済学部講師 前田一馬作成

地域中核企業としての加悦ファーマーズライス ～ヒアリング調査、実証研究結果から～

- 継続的な雇用創出と付加価値形成
加悦地域香河地区で継続的に事業を拡大、地域における高い雇用創出機能を持っている。
- 地域商社機能
米を中心として農家との契約、集荷、購入と地域において高い商社機能を有している。
- 域外所得獲得機能
域内付加価値を構築するとともに、域外所得を獲得する主体となっている。「雇用は域内」、「所得は域外獲得」となっている。
- 地域ブランド形成機能
関西、中部、関東を含めた広域的な地域での販売実績から与謝野町ブランドを域外へと広める役割を担っている。

地域中核企業としての役割

- 安定的な売上高の計上と黒字経営
経営は安定しており、販路拡大による売上の安定化と持続的な拡大が続いている。
- 地域の雇用と所得維持への貢献
地域の雇用と所得維持への貢献を通じて、地域経済の活性化に大きな役割を果たしている。
- 第3セクター企業としては稀有な事例
総務省の調査（2021年）によると国内の第3セクター企業は7,149社存在しているが、安定的な売上高増と黒字経営を続けている事例は少なく、稀有な事例である。

ご清聴ありがとうございました。

今後の研究・分析課題

- 地域における付加価値形成状況の把握
経済センサス活動調査との総合的分析の実施。
- 地域中核企業としての役割分析
理論的位置付けの明確化。地域経済・社会における役割分析。第3セクター企業としての成功事例。
- 今後の事業展開の可能性分析
さらなる地域内経済循環促進の可能性分析。政策提言など。

京都橋大学・与謝野町における地域中核企業（事業者）の地域内経済循環分析

産官学連携調査活動・成果報告

【プロジェクト【37】実施体制】 実施大学：京都橋大学 指導責任者：小山 大介（経済学部教授）、前田一馬（経済学部講師）、小山ゼミ2～4年生

事業名：与謝野町における地域中核企業（事業者）の地域内経済循環分析

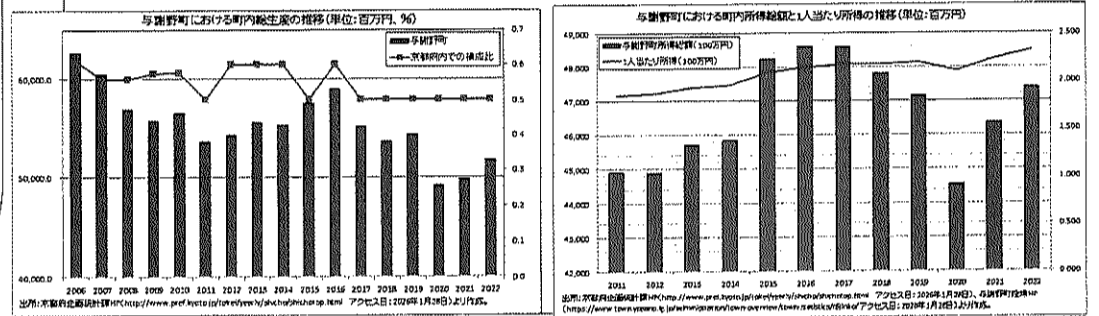
府内活動地域：京都府与謝郡与謝野町

1. 与謝野町と京都橋大学との連携

- ・2020年度における地域調査
地域経済分析調査を実施し、調査報告書を作成。
- ・与謝野町産業振興会議への参加
与謝野町産業振興会議へ専門家委員として参加。
- ・2回生合宿（地域経済理解）の実施
地域経済理解を目的とした2回生ゼミ合宿の実施。
- ・与謝野町・地域連携センター覚書締結（2023年度）
地域経済分析・調査に関する覚書を締結。
- ・2024年度「農副連携」調査プロジェクト実施
農業と福祉による地域内経済循環促進可能性分析。

2. 与謝野町経済の現状と可能性

- ・与謝野町経済の課題：域内事業者の減少
「農業と繊維のまち」として発展を遂げてきたが、地域の事業者が減少。域内付加価値、所得の伸び悩み。
- ・与謝野町経済の可能性：多様な事業者の存在
多様な事業者が事業を展開しており、農業を起点とした地域内循環や異業種連携の可能性が高い地域。



3. 課題の共有と調査対象の確定

【課題】地域内経済循環促進のための仕組みづくりと可能性を探るための現地事例調査。

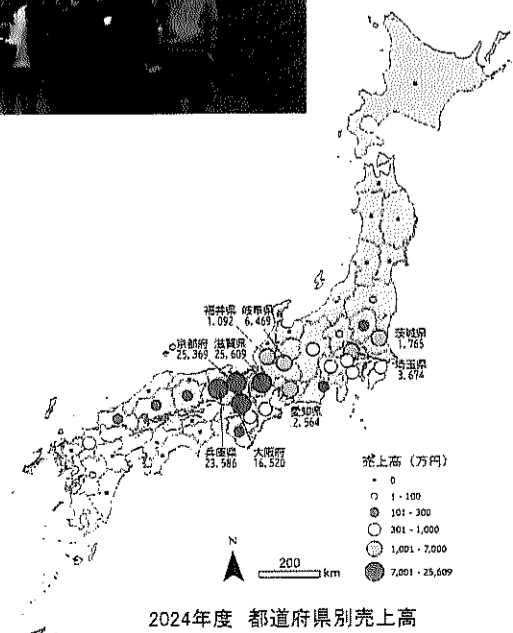
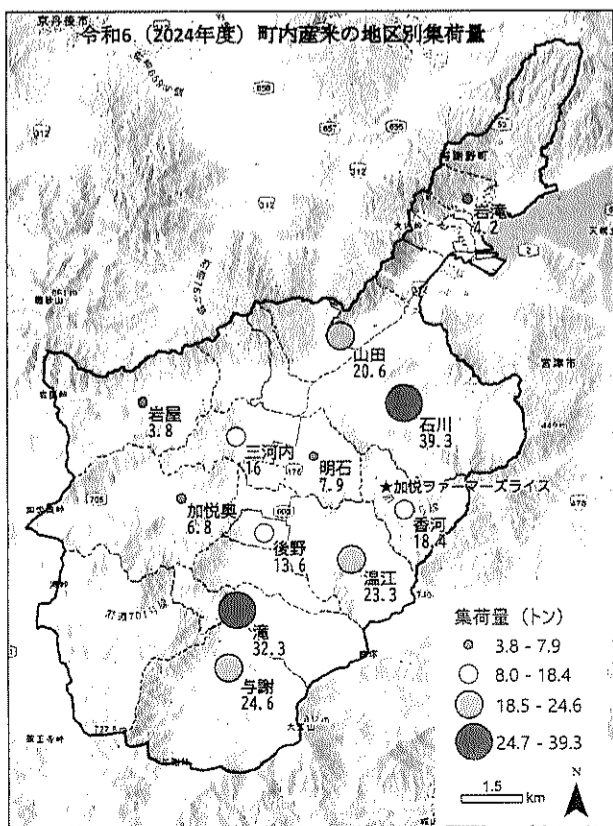
【調査対象】地域の農産物を集荷し、町内の工場を加工、域外販売を手掛ける（株）加悦ファーマーズライスの地域中核企業としての役割を分析。

【地域中核企業】とは何か

「高い技術力や成長性を有し、地域内取引や雇用の拡大など、地域に相当な経済効果を及ぼす地域経済を牽引する企業」のことを指す（経済産業省）。

4. 調査実施内容と分析成果

- ・地域経済視察と現地ヒアリングの実施
学生による地域の実情視察、（株）加悦ファーマーズライスへのヒアリング調査を実施。各種データの提供。
- ・提供データの分析とGISによる事業活動の「見える化」
町内における米の集荷状況、製品販売先データをもとにしたGIS（Geographic Information System）データの構築。
- ・分析の成果と政策提言
対象企業は、町内生産米の約10%を集荷し、域外に向け販売、10億円以上の売上実績。地域商社機能を担う。地域ブランド確立に貢献。異業種連携促進への政策的支援を。



5. 今後の課題：調査の精緻化へ

- ・個別企業の実績と地域産業政策との連動
域内企業の事業展開実績をいかに地域産業政策と連動させ、地域経済に貢献するのか。
- ・地域内経済循環の仕組みづくり
個々の企業の力を最大限発揮してもらうための地域内経済循環の仕組みづくり。
- ・新たな地域中核企業の創出と育成
地域経済の担い手発掘、新たな事業創出支援を進め、地域中核企業を育成。
- ・若い世代への地域の魅力発信
地域の魅力や事業者を知ってもらう活動促進。

出所・図作成：前田一馬（京都橋大学経済学部）が（株）加悦ファーマーズライス提供データをもとに構築。

【謝辞】与謝野町での調査・研究活動にご協力・ご支援頂きました皆さまに心よりお礼申し上げます。